

県立高等学校の再編整備

1 海南高等学校 定時制課程について

令和3年度の生徒募集は行い、令和4年度以降は募集停止とします。
(令和6年度末に課程を閉じます。)

2 理由等

海南高等学校定時制課程は、地域の勤労青少年に対する高等学校教育の機会付与のため、昭和23年10月に開校し、これまで多くの卒業生を送り出してきました。しかし、勤労青少年の減少や少子化の進行により、志望生徒は大きく減少し、令和2年度は入学者がいない状況になっています。

また、近年、定時制課程の夜間部には、少人数での学びを志向する生徒が入学している状況もありますが、全日制課程の高等学校の中に生徒個々のニーズに応じた教育を行う学校があることから、今後、定時制課程の夜間部を志望する生徒の減少は続くと推測されます。

定時制課程については、昭和54年9月、和歌山県高等学校教育協議会により示された「入学生徒数が募集定員の20%未満の状態が2か年連続している場合は、その学級の募集を停止する」との答申に基づき、再編整備を進めてきました。

一方、平成17年5月の「県立高等学校再編整備計画」において、柔軟なシステムをもった定時制の拠点校づくりが示され、平成24年4月、和歌山市及び周辺地域における定時制・通信制教育の拠点校として開校した、きのくに青雲高等学校をはじめ、県内に3つの拠点校が整備されました。

その後、平成28年4月の「県立高等学校再編整備基本方針」において、「定時制高等学校の入学生徒数について、募集定員の20%未満の状態が2か年連続している場合は、定時制高等学校の役割や通学距離を含めた地理的環境、地域の状況等も勘案しながら、統廃合を検討」することが示されました。

海南高等学校定時制課程については、平成25年度以降連続して入学生徒数が募集定員の20%に満たない状況であるとともに、近年、和歌山市の定時制・通信制教育の拠点校における教育が充実してきていること、全日制課程の進学希望がほぼかなえられる募集定員になっていること、今後も中学校卒業予定者数が減少することなどに鑑み、慎重に検討を重ねた結果、令和4年度以降は生徒の募集を行わないこととしました。